

1 会合概要

(1) 日時・形式：

令和4年10月8日（日本時間）

於：シンガポール（議長：シンガポール）

(2) 出席者：

山際経済再生担当大臣ほか11カ国の閣僚等



※TPP委員会は、協定に基づく、協定の運営等に関する最高意思決定機関。

2 結果概要

(1) 今回のTPP委員会は、2019年1月の第1回以来、3年ぶりに対面かつ閣僚級で開催。会合では、マレーシアのTPP11国内手続完了の報告、また各小委員会の活動成果やデジタル経済やグリーン経済分野における協力の進展の報告がなされるとともに、英国の加入プロセスについて加入作業部会議長の日本から報告するなど、出席した閣僚間で活発な議論が行われた。

(2) 11か国閣僚共同声明を採択。概要以下のとおり。

- ・ マレーシアがTPP11発効のための国内手続を完了させ、11月29日に9番目の締約国になることを歓迎。未締結国について早期発効を期待。
- ・ パンデミックの影響を受けたサプライチェーンの強靱化等、TPP11の地域における重要な貿易事項に対処することを確認すると共に、不当な貿易制限措置や経済的威圧に対処することを確認。
- ・ 英国の加入プロセスの進展を歓迎。同プロセスを通して協定のハイスタンダードを維持することの重要性と、更なる進捗に向けた英国とTPP11参加国双方の継続的なコミットメントを確認。
- ・ TPP11が、協定の目的にコミットし、そのハイスタンダードなルール及び包括的な市場アクセスのコミットメントを満たしかつ遵守することができ、また貿易のコミットメントを遵守する行動を示してきたエコノミーによるCPTPPの拡大に対する支持を再確認。
- ・ 次回の委員会の会合は、2023年にニュージーランドにより主催。

(3) 二国間会談の実施

- ・ 本会合の機会を活用し、山際大臣は、議長国のシンガポールのガン貿易産業大臣、カナダのイン国際貿易・輸出促進・小規模ビジネス・経済開発大臣、ニュージーランドのオコナー貿易・輸出振興担当大臣、オーストラリアのエアーズ貿易・産業閣外大臣、ブルネイのアミン・リユー首相府大臣兼第二財務・経済大臣と二国間会談を実施。世界経済が不透明さを増す中で、先進的でハイスタンダードなTPP11の果たす役割の重要性や、英国の加入プロセスの進展等について意見交換を行った。